

株式会社 横浜ロイヤルパークホテル

## IBM BladeCenterを核とするソリューションにより、異業種集積体であるシティー・ホテルにおける情報システムの拡張基盤を確立



横浜ロイヤルパークホテル(以下、YRPH)は、1993年に創業された国際クラスのシティー・ホテルです。国際都市「横浜」のシンボルであり、日本一の超高層ビルであるランドマークタワーの上層部(49階～70階)を占めており、603室ある客室は地上210m以上に位置し、全室がパノラマ・ビューとなっています。高度なサービスを徹底追求する中で、2006年度には創業以来、最高の業績を達成しています。ホテル業の基本は、24時間365日にわたって、常に安定したサービスを提供していくことに他なりません。当然、そのことはバックボーンとなる情報システムにも求められます。そこでYRPHでは、IBM BladeCenter、ストレージ統合、SANブート、VMwareといった最新技術の組み合わせによるソリューションを選択。これらによりサーバーの物理統合・論理統合、ダウンタイムの極小化を追求し、システムのさらなる信頼性・可用性向上を実現するとともに、将来へ向けての拡張基盤を築いています。

### シティー・ホテルという業態に特化して、さまざまな領域のIT課題にチャレンジ

シティー・ホテルであるYRPHのビジネス・モデルは、異業種の集積体であるといっても過言ではありません。宿泊、直営によるレストラン、婚礼・宴会を3本柱に業種は多岐にわたり、バックボーンには、それぞれ固有のシステムが機能しています。それだけに、ホテルのシステムには多数のサーバーが分散しています。YRPHにおいても、2000年よりクライアント/サーバー環境でのシステム構築を進める中で、サーバーの台数が増え続けており、これらを少人数で運用・管理していく上で、大きな負荷が生じています。

ホテルのシステムにおけるもう1つの特徴は、「24時間365日」のビジネスへの対応が必要であるということです。特に予約・インフォメーション・精算などといった顧客サービスが停止するようなシステム・トラブルは是が非でも回避しなければならず、そのための対策が最優先課題の1つとなっています。このことは、単にハードウェアの信頼性・可用性を向上させるという問題だけでなくとどまりません。システムのリプレースの際にも、短時間で切り替え可能な技術が確立されていることが前提条件となります。YRPHにおいては、レストランが終了する午前1時から、朝食がスタートする午前6時までの5時間が、システム切り替えのタイム・リミットとされています。

### ブレード・サーバー、SANブート、仮想化という3つのキー・テクノロジーに着目

YRPHでは、2000年～2001年に構築したシステムがリプレースのタイミングを迎えていたことから、2006年4月ごろから新たなシステムの検討を行ってきました。同社 取締役 総支配人の小野寺康雄氏は、その際に次のような指針を示したと言います。

「シティー・ホテルという独自性が高い業態を維持・拡大していくためにも、情報システムのあるべき姿を追求していくことは、非常に意義あることです。しかし、ホテルの基本はあくまでも営業を優先して、お客様に迷惑をかけないということ。それだけに、新システムの検討・計画を進めるに当たっては、導入後の効果はもちろんのこと、リスクを確実に回避するための方法論を求めました」

この指針に基づき検討を重ねていく中で、YRPHではブレード・サーバーとSANブート、サーバーの仮想化という、3つのキー・テクノロジーに着目しました。同社 営業企画部 情報システム課 課長代理の佐藤雅幸氏は、その理由を次のように説明します。

「ブレード・サーバーを選んだ理由は、サーバーの物理統合ならびに省スペース化を求めたからです。また、SANブートは、複数台のサーバーのディスク統合を可能とし、機材・設備コストの低減に加えて、運用・管理の一元化を可能としま

す。また、SANブート機能により、サーバー障害時に起動先を切り替えて業務を継続することができるため、ダウンタイムの極小化を追求できます。さらにSANによるストレージ統合を図ることで、万全のバックアップ・リカバリー・シナリオを築きたいと考えました。ディスク・ツー・ディスクでフラッシュ・コピーやボリューム・コピーを行うことで、バックアップ運用の簡素化と迅速化を図るとともに、リカバリー時間を短縮できるからです。実際に、OS障害によるCDドライブの復元時間が20分程度で完了したという事例もあったので、心強く思いました。サーバーの仮想化は、1台のサーバーを仮想化して複数のアプリケーションを稼働させることで、将来にわたってリソースの有効活用が可能になると考えたからです。同時にテスト環境を仮想化領域で動かすことで、より安全な環境下で検証ができるなど、アプリケーションの入れ替え時のリスク軽減も期待できました」



IBM BladeCenter

## 1ベンダーとして、ブレード周辺のソリューションをトータルに提供

YRPHはIBMをメイン・パートナーと考え、構築には実績を評価して株式会社CSIソリューションズを選定。IBM BladeCenterを核にSANブート、VMwareの組み合わせにより、新たなソリューションの実現を図りました。IBMを選んだ理由を、同社 営業企画部 情報システム課の久保田浩明氏は次のように説明します。

「ブレード・サーバーを核とするソリューションは世の中にたくさんありますが、1つのベンダーとしてトータルにソリューションを提供できていたのは、IBMだけでした。また、IBM BladeCenterが普遍的な設計ポリシーを有していることも評価の対象となりました。数年で製品の仕様が変わってしまえば、当社のシステム拡張に影響を与えかねないからです。その点、IBM BladeCenterは確固たる設計ポリシーを持っているので安心感がありました」

具体的には2007年4月より、顧客管理システムとレストラン・システム、婚礼・宴会システムがIBM BladeCenter上で稼働しており、またファイ

ル・サーバーと次のバージョンアップとなる婚礼・宴会システムのテスト環境が、IBM BladeCenter上のVMware配下で稼働しています。

このシステム移管に際しては、3ヵ月前よりIBM BladeCenterを導入し、OSとデータベースの検証、バッチ・ファイルによるクライアント設定の方法などを含めて、綿密なテストを繰り返しながら、本番移行に臨みました。インフラ構築ベンダーやアプリケーション・ベンダーとのシームレスな協力体制のもとに、5時間での本番移行というミッションは予定通り遂行されました。

## 2011年までに全システムをブレード化 将来にわたって期待できる効果を実感

導入効果は明確に現われています。定量的効果として最も顕著なのは、データベースへの日次更新時間が飛躍的に向上したことです。顧客管理システムでは従来のバッチ処理で30分～40分かかっていたものが3分～4分程度、婚礼・宴会システムでは7分から8分かかっていたものが10数秒程度に短縮されました。

「これは、SANブートのために導入したIBM System Storage™ DS4700の4Gbps対応ファイバーチャネル・テクノロジーにより、Disk I/Oが拡張されたことが要因です。今後のステップでは、この利点を最大限に活かし、現状のバッチ処理が2時間半～3時間かかっているシステムについても、パフォーマンス向上ができるかと期待しています」(久保田氏)

また、物理統合されたことで、日々のサーバー管理もシンプルになり、管理者の負担も軽減されました。さらにSANブートによる障害時の復旧までの時間は約10分を想定しており、これも大きな安心感につながっています。

「本当の意味での効果が現われてくるのは、これからです。今後は、基幹システムを含めて、2011年までにすべてのシステムをブレード化する予定です。その意味で、最小構成ながら容易に拡張できる環境を築けたことは、将来への布石になると確信しています」(佐藤氏)

「今回のシステム導入は、将来的なTCO削減を含めて、大きな意義があると考えています。課題を解決しつつ、将来への拡張基盤を築けたことを高く評価しています」(小野寺氏)



写真中央：取締役 総支配人

小野寺 康雄氏

写真右側：営業企画部 情報システム課 課長代理

佐藤 雅幸氏

写真左側：営業企画部 情報システム課

久保田 浩明氏



## 株式会社 横浜ロイヤルパークホテル

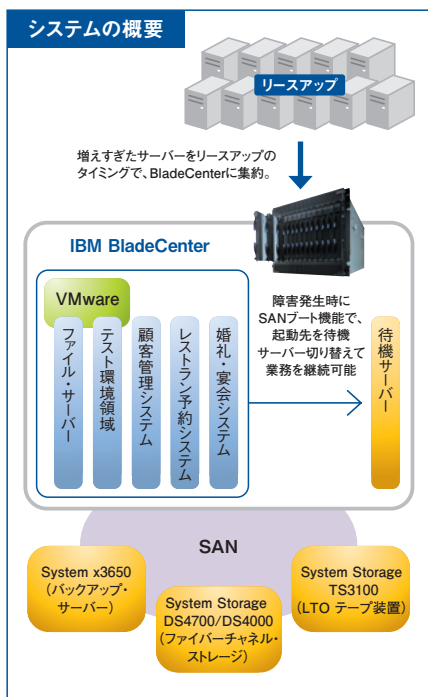
本社：神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1-3  
YRPHは、日本一の高層に位置する国際クラスのシティ・ホテルです。アクセス至便な立地にあり、ビジネス、コンベンションなどの都市活動を24時間サポートするとともに、世界を舞台に活躍する人々の安らぎのステージとして、真心を込めたサービスを提供しています。  
また、客室はすべて52階～67階という日本で最も高い210m～263mに位置しており、窓からはベイブリッジや山下公園などのベイエリアはもとより、三浦半島や富士山まで関東一円を望めます。  
<http://www.yrph.com/>

## 株式会社 CSIソリューションズ

本社：東京都新宿区西新宿6-8-1 住友不動産新宿オークタワー  
1989年に旧株式会社CSK（現 株式会社CSKホールディングス）と日本アイ・ビー・エム株式会社の合併企業として創業。以来、IBM製品のシステム販売をメインに、サーバーやセキュリティなどのインフラ基盤の構築、ERPやCRM関連のアプリケーション開発、そしてそのシステムの運用まで、幅広いソリューションを提供しています。運用支援サービスとして、X-BladePackを展開中です。  
<http://www.csi.co.jp/>

## ハードウェア：

IBM BladeCenter HS21  
IBM BladeCenter Eシャーシ  
IBM System Storage DS4700  
IBM System Storage DS4000 EXP810  
IBM System Storage TS3100  
IBM System x™ 3650  
IBM TotalStorage® SAN16B-2  
IBM UPS 7500XHV  
BladeCenter Cisco GbE スイッチ・モジュール  
Brocade 4Gb SAN スイッチ・モジュール



商標  
IBM、IBMロゴ、BladeCenter、System Storage、System x、TotalStorageは、IBM Corporationの商標。  
他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標。



## 日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12  
07-06 Printed in Japan

●このカタログの情報は2007年6月現在のものです。内容は事前の予告なしに変更する場合があります。●本事例中に記載の頁数や数値、固有名称等は初掲載当時のものであり、開覧される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。●事例は特定のお客様での事例であり、全てのお客様について同様の効果を実現することが可能なわけではありません。●製品、サービス等詳細については、弊社もしくはIBMビジネスパートナーの営業担当員にご相談ください。